

平成 20 年 5 月 11 日現在

研究種目：基盤研究(B)
 研究期間：2006年度～2008年度
 課題番号：18320055
 研究課題名（和文） 地球規模における「イスラーム」表象の宗教史的・文化史的総合研究
 研究課題名（英文） Islamic Cultural Representations in the Global Age
 研究代表者 青山, 亨 (90274810)
 東京外国語大学・外国語学部・教授

研究成果の概要：

本研究では、欧米、西・南アジア、東南アジア各地域の専門研究者による研究会を開催し、宗教、歴史、文学、芸術の側面から、イスラーム側からの自己表象のみならず、非イスラーム側からイスラームがどのように表象されたかについて、歴史的な視点とともに同時代的な視点も踏まえて、分析をおこなった。その成果は東京外国語大学の『総合文化研究』などの媒体を通じて各研究者の個別の研究として発表されている。以下、研究会の概要を示す。

2006年度は、第1回で研究計画のうちあわせをおこなったのち、第2回では、「イスラームと非イスラームのインターフェース」、「西・南アジアのイスラーム表象」、「東南アジアのイスラーム表象」の3テーマにしたがって中央アジア、西欧、南アジア、東南アジアについての6件の報告をおこなった。2007年1月にはマレーシア・ブルネイにおいてイスラーム社会におけるイスラーム認識の調査をおこない、第3回の研究会で報告した。

2007年度は、第1回ではインドネシアにおけるインド起源の舞踊劇の成立と、ジャカルタ下層社会におけるイスラーム文化表象についての報告、第2回ではインドネシア人研究者によるアチェにおけるイスラーム写本の意義についての報告があった。

2008年度は、第1回はアメリカ合衆国のムスリム文化表象、第2回はタイ南部のムスリム少数民族社会における共生の問題、第3回はインドネシア人作家を招いてのインドネシア文学におけるイスラーム表象の日本文学・ラテンアメリカ文学との比較的検討、第4回は戦前アメリカ社会におけるフィリピン・ムスリムの表象についての報告があった。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成18年度	5,100,000	1,530,000	6,630,000
平成19年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
平成20年度	5,600,000	1,680,000	7,280,000
年度			
年度			
総計	15,400,000	4,620,000	20,020,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、各国文学・文学論

キーワード：比較文学、イスラーム

1. 研究開始当初の背景

20世紀以降の世界は近代西洋に起源をもつ価値体系が地球規模的で拡散・浸透する時代である。一方、このようなグローバリゼーションの潮流に対抗する地球規模的な潮流の一つとしてイスラーム復興運動があるが、イスラームについてはステレオタイプな理解がいまだ一般的であり、実態に即したバランスの取れた多角的な視点が必要とされている。東京外国語大学を中核とする研究者ネットワークは多様な地域を研究する専門家を擁しているおり、このような課題に対応できる条件を備えている。

2. 研究の目的

多様な地域と時代におけるイスラームの文化表象を、各国語の文学その他の文献資料・映像資料・造形資料を読み解きつつ、イスラーム社会の内側と外側から、宗教と文化を軸とした多角的な視点で分析することによって、21世紀の世界を見通すための建設的視座を提供する。

3. 研究の方法

イスラームと関わる多様な地域の専門家による地域別の6班と地域横断のイスラーム表象文化の班の計7班を組織し、研究会・国際セミナーを開催し、イスラームにかかわる多様な文化表象について検討し、意見・情報を交換した。

4. 研究成果

- 1) イスラームという、21世紀の世界においてももっとも重要となるであろう文化的動態の一つであるイスラームを実態に即して公平に認識する枠組みを構築した。
- 2) 文化表象をめぐる比較的・歴史的な分析と議論を深める中から、文化表象一般に関する新しい理論への道を開拓した。

4. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 16件)

- ① 青山亨、東南アジアにおけるイスラームへの視点—イスラームの普遍性と地域の多様性、南太平洋海域調査研究報告、査読無、43号、2006年、pp. 3-14.
- ② 青山亨、インド化再考—東南アジアとインド文明との対話、総合文化研究、査読無、10号、2007年、pp. 122-143.
- ③ 青山亨、東南アジアのイスラーム地域における天変地異の語り—インドネシアにおける古典ジャワ文学の事例を中心にして、天変地異の社会学、査読無、2008年、pp. 14-29.
- ④ 岡田知子、現代の婦女庭訓としてのカンボジア大衆小説—女性のアイデンティティと新しい価値体系の形成—、慶應義塾大学言語文化研究所紀要、査読無、39号、2008年、pp. 1-17.
- ⑤ 川島緑・堀井 聡江、『新しい黎明』：1960年代カイロのフィリピン・ムスリム留学生論文集邦訳・解説(1)、上智アジア学、査読無、24号、2006年、pp. 183-205.
- ⑥ 黒田景子、「周縁」としてのパタニ、「中心」としてのパタニーシャムの「近代化」と南タイ、査読無、256号、2007年、pp. 21-44.
- ⑦ 佐々木あや乃、ハーフェズ詩注解(3)、東京外国語大学論集、査読有、72号、2006年、pp. 83-100.
- ⑧ 佐々木あや乃、ハーフェズ詩注解(4)、東京外国語大学論集、査読有、75号、2007年、pp. 137-151.
- ⑨ 佐々木あや乃、ハーフェズ詩注解(5)、東京外国語大学論集、査読有、77号、2008年、pp. 132-152.
- ⑩ 谷川道子、トランジット・ベルリン—あるいは〈東〉と〈西〉のトポロジー、査読無、総合文化研究、10号、2007年、pp. 66-77.
- ⑪ 多和田裕司、現代マレーシアにおける棄教：「制度化」されたイスラームの一断面、人文研究、査読無、58号、2007年、pp. 212-226.

- ⑫ 藤井守男、ペルシア語タフスィール『神秘の開示』に見る神秘主義的表象世界、東洋文化、査読有、87号、2007年、pp. 117-137.
- ⑬ 藤井守男、インド亜大陸のペルシア語文学の展開—いわゆる「インド・スタイル Sabk-i Hindi」派の文学の形成をめぐって、多言語社会における文学の歴史的展開と現在、査読無、2008年、pp. 15-26.
- ⑭ 水野善文、死の手紙、東へ？西へ？—説話伝承研究の試み、総合文化研究、査読無、10号、2007年、pp. 78-102.
- ⑮ 水野善文、ジャンルを異にする諸テキスト間の時空—インド文学史の記述法を模索しつつ—、多言語社会における文学の歴史的展開と現在、査読無、2008年、pp. 171-195.
- ⑯ 八木久美子、イスラームの『俗人』スタ—説教師、東京外国語大学論集、査読有、77号、2008年、pp. 117-133.
- ⑰ 八木久美子、教養科目としてイスラームをいかに教えるか、東京外国語大学論集、査読有、76号、2008年、pp. 213-225.

[学会発表] (計 3件)

- ① 青山亨、Indianization Revisited: A Comparative Review and its Contemporary Significance, Seminar at Center for Religious and Cross-Cultural Studies, 2007年9月4日、ガジヤマダ大学.
- ② 青山亨、ベンガル湾を渡ったインド的文明—東南アジアからの視点—、日本南アジア学会創立 20 周年記念連続シンポジウム第3回『インド的』文明とは何かII、2008年1月12日、京都大学.
- ③ 八木久美子、グローバル化するイスラームと『アラブ性』の意味の変化、日本宗教学会、2007年9月16日、立正大学.

[図書] (計 5件)

- ① 荒このみ、講談社、歌姫あるいは闘士—ジョセフィン・ベイカー、2007年、301頁.

- ② 荒このみ、雄松堂、マルコムX事典、2008年、482頁.
- ③ 西永良成、平凡社、ルネ・シャールの〈言葉〉、2007年、377頁.
- ④ 八木久美子、第三書館、マフフーズ・文学・イスラーム—エジプト知性の閃き、2006年、377頁.
- ⑤ 柳原孝敦、エディマン/新宿書房、ラテンアメリカ主義のレトリック、2007年、309頁.

[産業財産権]

- 出願状況 (計 0件)
○取得状況 (計 0件)

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

青山 亨 (総合国際学研究院・教授)

(2) 研究分担者

荒 このみ
外国語学部・教授

八木久美子
外国語学部・教授

水野善文
外国語学部・教授

佐々木あや乃
外国語学部・准教授

川島 緑
上智大学・外国語学部・教授

(3) 連携研究者